

平成30年度 業務棚卸評価シート

No.	5	担当部課名称	市立病院事務局 病院総務課
事務事業名	経営健全化の推進に関する事務		
見直しのタイトル	病院経常収支の改善		
添付資料 有無	無		

1 現状における課題

- ・全国の自治体病院が赤字となっている状況ではあるが、当院は2年連続で10億円を超える赤字を計上している。
- ・28年度は電子カルテ導入などにより入院患者や外来患者を一時制限したことによる医業収益の減少が大きく影響していると考えていたが、通常の診療を行い、なおかつ病床利用率も向上した平成29年度においても同様に赤字となっている。

2 業務改善の趣旨及び具体的内容

【趣旨】

公立病院は、地域における基幹病院として良質な医療を継続的に提供しつつ効率的な経営を求められており、経費節減や収入の確保に積極的に取り組むが、法の一部適用で運営し続けることが今後も適切なのか検討が必要である。

【具体的内容】

茅ヶ崎市立病院経営計画に基づく取り組みや増収及び支出減に取り組んでいく。さらに、収支の安定が見込まれる経営形態への移行を含め、今後の病院事業のあり方については、茅ヶ崎市として全体の組織運営のあり方として検討していく。

3 改善により期待できる効果

安定した経営の下で良質な医療を継続して提供し、持続可能な病院経営が可能となる。

4 実施スケジュール（概要）

（経常収支の改善）

- 5月～7月 現状の把握と増収及び支出減への取り組み検討
- 7月～3月 増収及び支出減の取り組み実施

5 実施結果の振り返り

（経常収支の改善取組項目）＊病院全体の取り組み

- 7月 各診療科の治療実績をホームページへ掲載
→11診療科掲載した。
確実な診療材料の保険請求の仕組み作り
→診療材料費に占める保険請求額の割合を前後で比較すると、前年度30.47%が33.92%となり、増加した。
- 8月 内科救急外来患者のレビューの実施
→救急患者の受入件数が月平均501件から505件に増加した。
- 10月 市立病院通信の発行
→医師からは紹介状を持った患者がかなり増えた印象があると回答があった。
- 11月 経営分析ソフト及びレセプト請求適正化支援ソフトを導入
→経営分析ソフト導入により、病患者等入院診療加算で25,000円、救急医療管理加算Iで63,000円それぞれ増収、レセプト請求適正化支援ソフト導入により約400万円の増収が見込まれた
- 12月 地方公営企業等経営アドバイザー派遣により経営に関するアドバイスを受けた。

今後も引き続き収支改善に積極的に取り組み、経常収支比率及び医業収支比率の向上に努めていきたい。